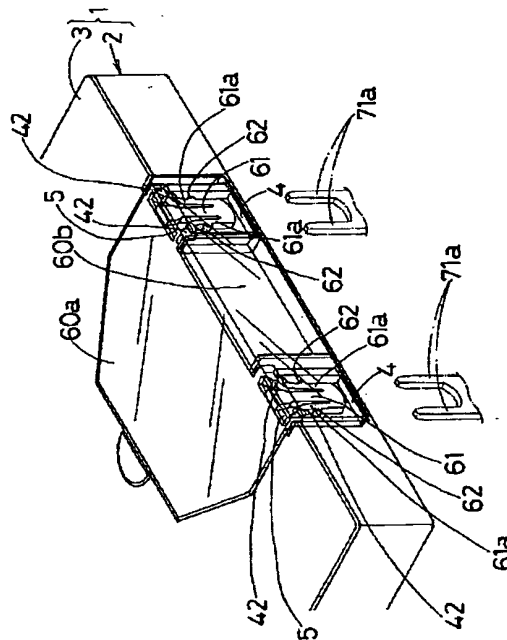


(11)特許出願公開番号

(43)公開日 平成9年(1997)5月20日

3 1 1H

(74) 代理人 弁理士 辻本 一義



【特許請求の範囲】

【請求項1】 左収納部と右収納部とを揺動可能に取り付けて成るケース本体と、前記ケース本体とは別体の止め具とを具備し、前記左・右収納部にはケース本体が閉じた状態で相互に重なる貫通孔を設けてあると共に左収納部の貫通孔構成壁又はその近傍に係止爪を形成してあり、他方、止め具は、当たり壁と、この当たり壁に立設した支柱に設けられている弾性変形可能な係止片とを有するものとしてあり、ケース本体を閉じた状態で当たり壁が右収納部の外壁に当接するまで右収納部側の貫通孔から支柱を挿入すると係止爪と係止片とが係止状態となってケース本体を開くことが不能となり、左収納部側の貫通孔からキーを挿入することにより係止片を変形させて係止爪と係止片との係止が解除し得るようにしてあることを特徴とするビデオテープ収納ケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、レンタルビデオショップで使用されるビデオテープ収納ケースに関するものである。

【0002】

【従来の技術】レンタルビデオショップの中には、図10に示すように、ビデオテープ91を収納ケース92に入れ、さらにこの収納ケース92に作品の内容を表すタイトルや写真等を表示した外ケース93に挿脱自在に入れて陳列する方式を採っているところがある。

【0003】前記ビデオテープ91には、盗難検知用のタグ（図示せず）が貼られており、そのまま持ち出すと、店の出入口付近に設置されたゲートを通過するときに検知されるようになっていいる。

【0004】したがって、客は希望するビデオテープ91の入った収納ケース92をカウンターで一旦店員に渡してレンタル料を支払い、ゲートを通過してから前記ビデオテープ91を受け取るようにしている。

【0005】しかしながら、従来の前記収納ケース92は、誰にでも自由に開閉できるようになっているため、店員の見えていない場所で前記収納ケース92から勝手にビデオテープ91が取り出され、さらに盗難検知用のタグが剥がされて持ち去られる危険性があった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】そこで、この発明では、店員以外の者がビデオテープを取り出すことが極めて困難なビデオテープ収納ケースを提供することを課題とする。

【0007】

【課題を解決する為の手段】この発明のビデオテープ収納ケースは、左収納部2と右収納部3とを揺動可能に取り付けて成るケース本体1と、前記ケース本体1とは別体の止め具6とを具備し、前記左・右収納部2、3にはケース本体1が閉じた状態で相互に重なる貫通孔4、5

を設けてあると共に左収納部2の貫通孔4構成壁又はその近傍に係止爪42を形成してあり、他方、止め具6は、当たり壁60aと、この当たり壁60aに立設した支柱61に設けられている弾性変形可能な係止片61aとを有するものとしてあり、ケース本体1を閉じた状態で当たり壁60aが右収納部3の外壁に当接するまで右収納部3側の貫通孔5から支柱61を挿入すると係止爪42と係止片61aとが係止状態となってケース本体1を開くことが不能となり、左収納部2側の貫通孔4からキーを挿入することにより係止片61aを変形させて係止爪42と係止片61aとの係止が解除し得るようにしてある。

【0008】このビデオテープ収納ケースはケース本体1に止め具6が取り付けられた状態、即ち、当たり壁60aが右収納部3の外壁に当接し且つ係止爪42と係止片60aとが係止状態となった状態ではケース本体1を開くことが不能となる。そして、左収納部2側の貫通孔4からキーを挿入して係止片60aを変形させ、係止爪42と係止片60aとの係止を解除しないかぎり、ケース本体1を開くことはできない。

【0009】

【発明の実施の形態】この発明の実施の形態を図面に従って説明する。

【0010】この発明のビデオテープ収納ケースは、図1に示すように、ケース本体1と、前記ケース本体1とは別体に形成された止め具6とから構成されており、ケース本体1を閉じた状態で止め具6を取り付けるとケース本体1を開くことが不能となり、図2に示すキー7を使用して止め具6をケース本体1から取り外せばケース本体1を開くことが可能となるものである。なお、これらケース本体1及び止め具6は半透明の合成樹脂により構成してある。

【0011】以下に、上記ケース本体1、止め具4及びキー7について詳述する。

〔ケース本体1について〕ケース本体1は、図1に示すように、左収納部2と右収納部3とを揺動可能に取り付けて成るもので、閉じた状態では、図2に示す如く右収納部3の周壁30が左収納部2の周壁20の内側に嵌入されるようになっている。

【0012】周壁20の長辺部分には、図3に示すように、その中央部に凹み部21を形成してあり、この凹み部21には貫通孔4、4を形成してある。この貫通孔4は、図3に示すように、凹み部21を構成する底壁に立設した長辺側周壁20の高さと同じ長さの縦片40、40と、前記縦片40、40との間に架設された縦片40の高さよりも短い横板41とから構成されており、前記縦片40、40における横板41から突出する対向面部分にそれぞれ係止爪42を形成させている。なお、図1や図8に示すように、貫通孔4を構成している周壁20部分（凹み部21の底壁）には孔22、22を形成して

ある。

【0013】周壁30の長辺部分には、図3に示すように、その中央部に凹み部31を形成してあり、この凹み部31には貫通孔5、5を形成してある。この貫通孔5は、図3に示すように、右収納部3を構成する底壁面に延設した延長片50、50と、前記延長片50、50の先端部分に架設した横板51とから構成されており、前記横板51の幅を縦片40と横板41との長さの差と一致させてある。なお、左収納部2側に具備させてある貫通孔4と右収納部3側に具備させてある貫通孔5とは図4に示す如くケース本体1を閉じた状態では上面視で重なり、これら貫通孔4、5により後述する止め具6の支柱61及び係止片61a、61aが挿入される挿入路が形成される。また、右収納部3の周壁30は、図3に示すように、長辺部と短辺部とが交わる角部及びその近傍部分の高さを大きく設定してあり、これにより、ケース本体1に止め具6がセットされた状態において前記角部からケース本体1がこじ開けられることを防止できるようにしている。

〔止め具6について〕止め具6は、図3に示すように、当たり壁60aと、前記当たり壁60aの端縁に直角方向に延設された包被壁60bと、当たり壁60aにおける包被壁60b近傍に立設された、弾性変形可能な係止片61a、61aを有する支柱61、61とから構成されている。なお、係止片61a、61aの先端部相互の外幅は、係止爪42、42相互間距離よりも少し大きく設定されており、また、係止片61a、61aの中程外面にはそれぞれ突起62を形成してある。

【0014】なお、支柱63には、図1や図8に示すように、ケース本体1に止め具6が取り付けられた状態において上記した孔22に嵌入状態となる突起63、63を設けてあり、前記嵌入状態において図6に示すように、係止片61aと係止爪42との間に上下方向の隙間ができるようにしてある。これは、図6に示す如くキー主体71を貫通孔4から挿入した際に、軸部71aによる係止片61aの変形が係止爪42により阻害されないようにするためである。

〔キー7について〕この実施形態では、キー7は、図5に示すような装置8に設けてあり、この装置8は、ビデオテープ収納ケースが挿入支持される開放部80を有したフレーム80と、キー7をバネ81の付勢力に抗して押し下げるための押し部82を具備させたものとしてある。

【0015】上記キー7は、図5に示すように、一対のキー主体71、71を横部材70で繋いでなるコ字状の板材で構成されており、前記キー主体71、71の先端部にはこれが上記した貫通孔4に挿入された際に上記係止片61a、61aを接近させるべく弾性変形させる軸部71a、71aを具備させてある。

〔ケース本体1が開かないように止め具6によりロック

する作業について〕

①まず、ケース本体1を閉じた状態にする。この状態では、貫通孔4と貫通孔5とが重なり合った状態となっており、これら貫通孔4、5により止め具6の支柱61及び係止片61a、61aを挿入するための挿入路が形成されている。

②当たり壁60aが右収納部3の底壁外面に当接するまで右収納部3側の貫通孔5から支柱61及び係止片61a、61aを挿入する。すると、挿入途中において、係止片61a、61aの先端部は係止爪42、42により弾性力に抗して相互に接近せしめられ、通過すると元の状態に弾性復帰する。これにより図4や図6の実線に示す如く、係止爪42と係止片61aとが係止可能な状態となり、止め具6は左収納部2に対して抜け止め状態となる。したがって、図4や図6の実線に示す如く、右収納部3は左収納部2と一体になっている止め具6の当たり壁60aとの当接によって、左収納部2に対して揺動できないこととなる。つまり、ケース本体1は開かないようにロックされた状態となる。

〔ケース本体1が開くようにすべく止め具6を外す作業について〕

①まず、上記した装置8の開放部80内に、当たり壁60aが下側となる態様でビデオテープ収納ケースを挿入する。この状態では、図6に示すように、各キー主体71がビデオテープ収納ケースの貫通孔4の上方に臨んでいる。

②次に、上記①の状態から押し部82を下方に押し下げていく。すると、キー主体71は図6の二点鎖線の状態まで降下し、軸部71aが係止片61aの突起62に当たって前記係止片61a、61a相互は接近せしめられるべく弾性変形する。このとき、係止片61a、61aの先端部相互の外幅は、図6の二点鎖線に示すように、係止爪42、42相互間距離よりも小さくなっている。また、キー主体71の面72と止め具6の支柱61の先端部とは当接した状態となっている。

③上記②の状態から更に図7に示した軸部71aの下端が係止爪42に当接するまで押し部82を下方に押し下げると、同図に示すように、係止片61a、61aは上記②の状態が維持されたまま、係止爪42、42と係止状態となることなく通過し、止め具6の当たり壁60aが右収納部3の底壁外面から離反する。

④押し部82への押し力を除く。このとき、キー主体71は貫通孔4から抜けて軸部71a、71aから係止片61a、61aに作用する変形力は解除されることとなるが、図7の状態となっていることから係止片61a、61aと係止爪42、42とが係止状態となるようなことはない。

⑤続いて、装置8の開放部80内からビデオテープ収納ケースを抜き取る。

⑥止め具6をケース本体1から引き離すべく取り外す。

すると、ケース本体1を開くことができることとなる。
〔他の実施形態について〕上記実施形態のビデオテープ収納ケースでは、キー主体71の面72により止め具6の支柱61の先端部を押圧して、貫通孔4, 5から支柱61及び係止片61aを押し出すようにしてあるが、図9に実線及び二点鎖線に示すように、キー主体71の軸部71aの端部により止め具6の突起62を押圧する態様で、貫通孔4, 5から支柱61及び係止片61aを押し出す構成としてもよい。

【0016】

【発明の効果】店員以外の者がビデオテープを取り出すことが極めて困難なビデオテープ収納ケースを提供できた。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明のビデオテープ収納ケースを開いた状態で下面側から見た斜視図。

【図2】ケース本体に止め具が取り付けられた状態のビデオテープ収納ケースとキーとを表した斜視図。

【図3】ケース本体に止め具が取り付けられる前の状態のビデオテープ収納ケースの要部の斜視図。

【図4】ケース本体に止め具が取り付けられた状態のビデオテープ収納ケースの要部の斜視図。

【図5】前記止め具をケース本体から取り外すためのキーを具備する装置の斜視図。

【図6】ケース本体の係止爪と、止め具の係止片と、キーのキー主体との関係を示す断面図。

【図7】キーにより係止爪と係止片との係止状態が解かれ、係止片及び支柱が貫通孔から押し出された状態を示す断面図。

【図8】左収納部の周壁に形成した孔と止め具の支柱に設けた突起との係合状態を示す断面図。

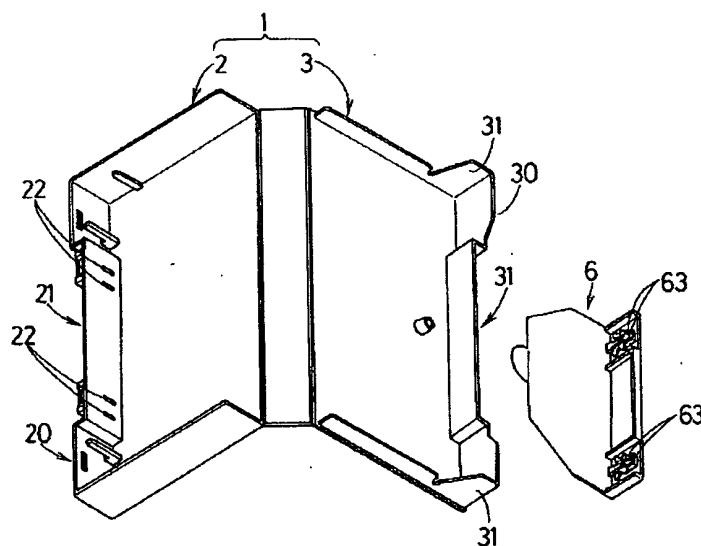
【図9】他の実施形態のビデオテープ収納ケースにおけるケース本体の係止爪と、止め具の係止片と、キーのキー主体との関係を示す断面図。

【図10】先行技術のビデオテープ収納ケースと外ケースの斜視図。

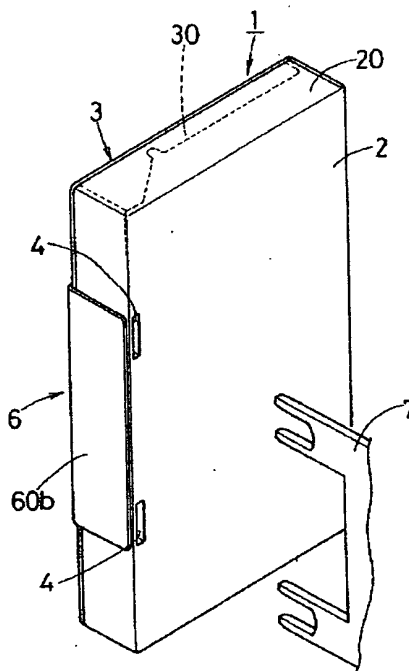
【符号の説明】

- | | |
|-----|-------|
| 1 | ケース本体 |
| 2 | 左収納部 |
| 3 | 右収納部 |
| 4 | 貫通孔 |
| 5 | 貫通孔 |
| 6 | 止め具 |
| 42 | 係止爪 |
| 60a | 当たり壁 |
| 61 | 支柱 |
| 61a | 係止片 |

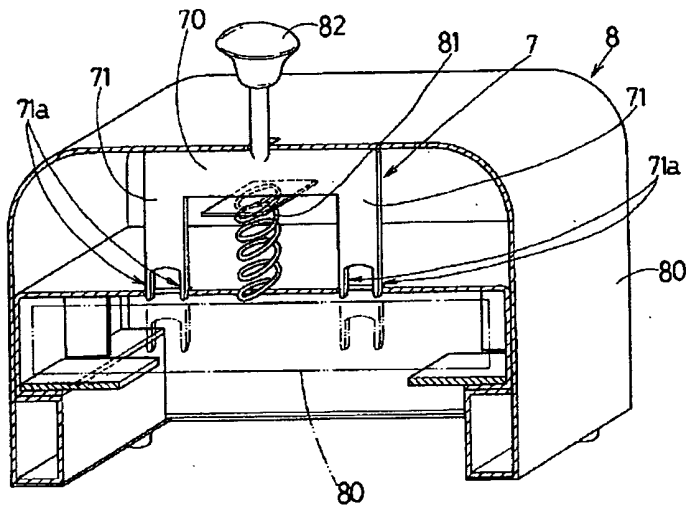
【図1】



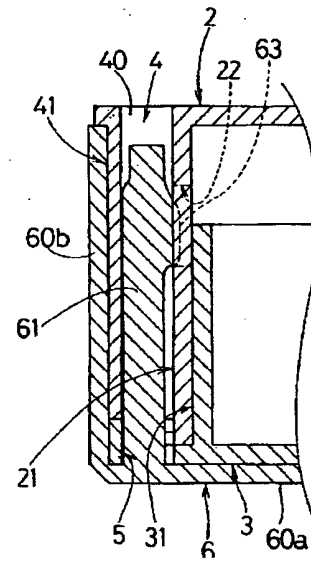
【図2】



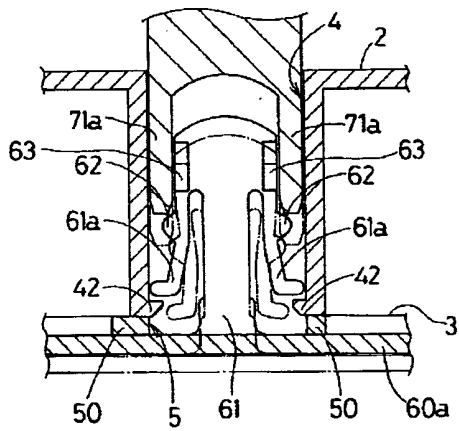
【図5】



【図8】



【図9】



【図10】

